

熾烈な戦いになった。トレイルオリエンテーリングの東京大会と茅ヶ崎大会

トレイル0 東京大会 2012年2月18日
狭山湖ふれあい公園

トレイル0 茅ヶ崎大会
2012年3月25日
神奈川県茅ヶ崎里山公園

ES

この2大会は、今年度世界選手権日本代表の選考レースと、今年11月に開催の全日本トレイル0選手権大会のEクラス出場権をかけた、熾烈な戦いになりました。

トレイル0の熾烈な戦いというのは、息せき切って走ったり、ゴールで倒れこんだり或いは、抱き合って喜んだり、思わず泣いたりする派手さはないのですが、その分、息をひそめるくらいの緊張感が漂います。

又、トレイル0にはパックで走るとか、前走者のルートを利用すると言うことは無いと思うのですが、トレイル0ならではのパックが有るのです。

例えば木村治雄と、同じコントロールに差し掛かったら、木村が何処からフラッグを見ているか、何処まで回り込んで、見ているか？ 自分の思わぬ方向から見ている場合は、とりあえずそこまで行ってみます。すると、あ、ここから見るとなるほど、と言ったことがたまに有ります。

世界選手権大会になると、フェイントを使って、簡単に「正解無し」と判った処であちこちから、考えたふりをすると言うこともあるそうです。

東京大会は1位中尾吉男 2位鈴木規弘 3位山口尚宏、茅ヶ崎大会1位山口尚宏 2位木村治雄 3位山口拓也、の結果でした。ほんの少しのミス、タイムコントロールの何秒が順位を左右しました。優勝者及びコースセッターの感想を聞きました。

東京大会優勝者 中尾吉男

大会当日は気温が低くて風も強く、かなり厳しい気候でした。そんな中で、



トレイル0 東京大会表彰者
3位・山口尚宏(左)、1位・中尾吉男(中央) 2位・鈴木規弘(右)

よく練られた難問をTC含めて19問もこなすのはかなり大変でしたが、十分な睡眠と防寒対策、そして大会前日に酒を飲まなかったおかげで、何とか最後まで集中力を維持することができました。最初のTC2つを落とさなかったことと、終盤の最難関である16番のZを見抜けたことが勝因として大きかったと思います。ここ最近の大会はケアレスミスにより順位を大きく落とすことが多く、優勝からも長らく遠ざかっていたので、今回の久しぶりの優勝は非常に嬉しかったです！個人的には今回みたいに難しい課題の多い大会のほうが得意(上位に行きやすい)なので、今後も同様の大会が増えてくれると嬉しいです(笑)。

大会運営者の皆様、貴重なトレイル0大会の機会を提供してくださり誠にありがとうございました。

茅ヶ崎大会 優勝者 山口尚宏

前日の合宿の寒さは少し和らぎ、3/25に神奈川県茅ヶ崎市の里山ふれあい公園にて、茅ヶ崎大会が開催された。

2012年トレイル0日本代表選考の最終戦。居並ぶ選手の顔も必然に気合が入る。スタート直後、2つのTCをやや固くなりながらも無難にこなす。

私の今年の日本代表の条件は本大会の優勝と非常に限られたものだったが、ふたを開けてみれば満点の優勝。1点差

に2名、2点差に3名と際どい勝利であったが、日本代表の可能性に望みをつけないだ(その後の選考の結果、代表選考は通らなかった)。

ここでは、大会一押しのポイントとして、9番~12番の一連の流れを紹介する。競技中に動ける道から西側に水系と池をはさんで、30~50m向こう側のコントロール群。各コントロールで解きやすい場所が異なる(添付地図参照)。



まずは9番の岩と岩の間。DPから見た微妙な配置。直線的に見通せそうで見えないフラッグ群が焦りを誘う。結果的には見通せないまま解くしかない

とのことを、少し戻った建屋から確信(地図中①)。正解なしのZのパンチをCCに押す。

次は10番の沢。正面から見やすい。一見簡単のようだが、何か見落としはないか。東側のがけと南側のさくとの位置関係から考える(地図中②)。見落とし無しと判断し、奥のAをCCに押す。

11番の尾根。3つのコントロールが位置する。正面から見ると南北に並んでいるようにも見えるが少し違うような。フラッグを見ながら道を北側に進むと位置関係が変わる。尾根の高低=地図上の東西にもフラッグがずれていることが分かる(地図中③)。一番左のCをCCに押す。

12番のさくの曲がり。簡単なようだがどこが曲がりだ?? DP 東側から見ても分かりにくい。一見曲がりに見えるところがある。道を北に歩く。さっき曲がりに見えたところがさくの高低でできた錯覚で、実は曲がっていないことがわかる。10分以上、悩みに悩んで解答を決め、最後に南側へ。最初からここから見れば! やっぱり正解なしのZです。CCに押す。

私が9番に着いたとき、10名以上の選手が青線の道上にいただろう。解答を求めて、南北に右往左往。他の選手も気になりつつも、自分の考えに没頭。とはいうもののどこに立てば解答にたどり着きやすいかヒントが得られることもあるので、やはり見る。解き終わった選手から徐々にこの道を離れ、新たに選手が着いて、少しずつ選手が入れ替わっていく。

こんな流れであった。大会全体として、7番コントロールがキャンセルとなったが、課題の多彩さ:距離・特徴物・解き方など、相応しい最終選考Aクラスに相応しい大会と感じた。大会運営者の皆様、ありがとうございました。

茅ヶ崎大会 コースプランナー **小泉辰喜**

「今回のコースは、2年前の全日本大会で使ったところを避けたため、残りの範囲の中で課題を設定できることをフルに活用して組んでいます。そのため、移動距離とアップが多く、体力面での負担の比重が大きくなったと思っています。また、比較的点状特徴物が少ない地図なので、尾根や柵といった線状特徴物を使った課題を繰り返すことになり、適当な難易度が確保できているか不安がありましたが、結果を見ると、何とか大会の形にできたと思います。」

茅ヶ崎大会競技責任者 **兼マッパー 藤生考志**

今回に関しては、申し訳ありませんでした、以外は言いようがありません。

あらゆる解法を想定して地図を正確に描かねばならんのだが、力不足でした。特に、今回は選手にとっては代表選考の一番でしたが、後味を悪くして申し訳なく思います。

茅ヶ崎大会実行委員長 **田中 博**

競技責任者兼マッパーの藤生は茅ヶ崎大会の7番コントロールが不成立になった事に 責任を感じています。

問題の7番コントロールは 上の道下の道 そして右方向の道と、ほとんど周囲270度からフラッグが見えるコントロールであり、設置の段階、コントロールチェックの段階、と何度も繰り返しあらゆる方向からみて正解位置に行きつくように見たつもりでした。

しかし、結果からみて、チェックが甘かった、あらゆる地点から見ると言う点で、足りなかったと言わざるを得ません。

反省と共に、コントロールを設計する時に、1方向、あるいは2方向からフラッグを見る場合はともかく、3方向以上からフラッグが見えるコントロールを作るのは、出来たら避けた方が無難であり。もし 設置するなら、十二分の注意を怠ってはならない。と言う貴重な経験をしたと言えます。

誰でも、十分な時間をコントロールの設置にかけられるものでは有りません。

それでも、公認大会の数も必要です。質を落としてもいいと言うつもりはありませんが、不成立のコントロールを作ってしまった責任と、後味の悪さを一番感じているセッターとマッパー競技責任者を責める様な、雰囲気が生まれないよう実行委員長としてお願い致します。

(田中 博)